

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970800809
法人名	医療法人 正寿会
事業所名	グループホームだんらん
所在地	〒 409-3812 山梨県中央市乙黒247-1 電話番号 055-273-7331

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	平成19年11月5日

【情報提供票より】平成19年9月6日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7人	常勤	7人 非常勤 0人 常勤換算 0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	0 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(30,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	— 円	昼食	— 円
	夕食	— 円	おやつ	— 円
	または1日当たり 1380 円			

(4) 利用者の概要 平成19年9月6日 現在

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.3 歳	最低	78 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立甲府病院、笛吹中央病院、甲府城南病院、玉穂歯科診療所
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年10月5日

甲府市郊外の豊かな自然に囲まれた環境にあり「やすらぎ」「ぬくもり」のある家庭的な雰囲気づくりに職員全員が日常接している。地域に根づいた事業所を目指し自治会長の協力を得ながら地域との連携を重視しその人らしい生活が継続できるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) これ迄のサービス内容を見直し全職員がカンファレンスで話し合い事業所の質の確保に活かしている。外部評価の結果は、誰でも見られるように掲示している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は項目一つひとつを職員全員で厳しく点検し改善に向けて具体的な案の検討や実践につなげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、家族等の活発な意見が出てこないため、事業所の大掃除やピクニックなど参加してもらい利用者の日常生活を見もらうような計画立て、運営会議に活かすよう努めている。自治会長の協力により、地域の老人会に参加している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の苦情、意見等を事業所だけでなく、行政機関への相談窓口があることを伝えてい。事業所の玄関には意見箱が設置されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議の中で、自治会長の協力を得て敬老会に参加する機会を持っている。郊外にあるため近隣とのふれあいが難しい環境にあるが、近くの畑で仕事をしている方達とのふれあいを大切にしている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームだんらん

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は母体と同じであるため、事業所独自の基本方針をつくりあげている「やすらぎ」を年間目標に掲げ、健康管理は勿論、外出の折には近くで畑仕事の方々の会話等、地域に根ざした生活支援の継続をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、月1回カンファレンス時に理念に触れ、確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣近所と離れ更に老健施設内に併設されているため、事業所に気軽に立ち寄り地域の方との交流する機会を持つことがむずかしい。	○	自治会長さんの協力を得、地域の行事の時には声かけをしてもらい老人会の方たちとのピクニック、敬老会などに積極的に参加し、また事業所の行事を地域の方に知ってもらえるように努めている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価を行った後、職員全員で確認している。外部評価の結果を踏まえて改善計画シートは作成していないが、カンファレンス時その都度改善に向けて具体案の検討や実践につなげる努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族等の参加者が少なくサービスの実際の報告が主となり、意見、要望など双方向的な活発な意見が出てこない。	○	運営推進会議では自治会長の協力が多大である。事業所としては、家族会の場でもあると考えているので、利用者、家族との食い違いを改め、家族同士の会話が出来るようにに努め事業所の大掃除等を考えている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入所時、その他市役所、地域包括センターには管理者が出向いて相談し情報を共有している。ボランティア、ケアマネ等の依頼もしているが行政の担当者の異動等で関係づくりが難しい面もある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族向けの「玉穂だより」の発行で日常生活の様子をお知らせし、面会時に個々利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行政の窓口等、事業所以外の外部の人に家族等が意見、苦情を表せる機会や場がある事を伝え、意見箱も置かれている。家族は協力的で、急な受診でも直ぐに対応してくれるが運営推進への関わりが少ない。	○	運営推進会議は家族会も兼ねているので、事業所の行事としてピクニック、大掃除等、声をかけ家族同士の関わりの場を作りながら、利用者の日常の様子を知ってもらい、意見、質問、苦情等を反映させていけるように努め家族会へ繋げていくことに期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人内での異動はあるが、事前に利用者に説明してダメージを少なくするように努めている。併設の老人保健施設との交流があるため、馴染みの職員がいることで安心感をもたれる良い面もある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、1ヶ月に1回の職員研修、事業所外の認知症研修に参加し、終了後職員全員でカンファレンスを行い意思の伝達を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者と協働しながら質の向上、情報を得たいと考えているが、市内には同業者が無く、ネットワークづくり、相互評価等の交流を図りたいと考えているが難しい。	○	今後は近隣の事業者も含め地域の介護サービス事業者、包括支援センターとの交流を密にし、形式的な交流ではなく、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流になる事を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内の老人保健施設から入居と言う段階を進めているため、利用者にとってスタッフや他の利用者との間で馴染みの関係を作るように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、季節の行事、料理等を一緒にする事で多くを学んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制をとり一人ひとりの日々の関わりの中で、身体状況、思い、希望など細かい気づきを全職員が共有し、介護や生活を支えるアセスメントにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各職員の創意工夫を伝え合いアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全体カンファレンス、ケースカンファレンスを行い3ヶ月に1度利用者への聞き取りをして、介護計画の作成に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。併設の施設でリハビリを受けられる支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。かかりつけ医と手紙で認知症ケアの相談する等連携を取っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や関係者と話し合いながら本人の状況、思いに注意を払い支援につなげる体制づくりがあり、重度化については、併設の施設対応を話し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の誇りを尊重し、プライバシーの確保を運営者、管理者はもとより、パート職員も含めた全職員が日頃具体的に確認し話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、特に食事時間などは区切らず、一人ひとりの体調に配慮し、その日の気持を尊重し混乱のないように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事は、大きな楽しみであるため月2回ほどの外食をしたり日常は、利用者と職員と一緒に準備をし食事を楽しんでいる。また栄養士の資格のある職員がいるため、1週間ごとに献立表を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の中には、入浴を拒否される方もいるため、特に信頼されている職員が個人的にさりげなく支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるような場づくりをしている。囲碁がプロ級の利用者には、相手をしてくれる方を探し活力を引き出す楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みの理容院に行ったり、移動美容室が訪問して散髪してくれる。買い物、外食やドライブ等心身の活性につながるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常玄関は鍵をかけないが、利用者の中に不穏な方がいて居室の窓から出た経緯があり、職員が常に居場所を確認し危険が無いよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼と夜の避難訓練は行っているが地域との関わりについては、運営推進会議の中で進めている。危機管理については、母体である法人が最低限の対応ができるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当している職員が利用者の介護記録を細かく記録し全職員が情報を共有している。併設の管理栄養士から食事内容を見てもらい栄養指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は椅子のみだが明るく清潔にされ壁面は利用者と職員で季節感のあるクラフト紙で作ったアートが飾ってある。廊下にはお花紙を丸め利用者の指導で立派な壁飾りを作り、利用者のリハビリにもなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	娘さんが描いた油絵や仏壇があり利用者の好みや馴染みの物など生活スタイルに合わせて用意し壁紙と同系のカーテンなど配慮している。		